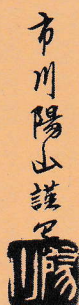


みおしえ



源智上人造立の阿弥陀如来像



埼玉教区浄土宗青年会

<http://www.saijousei.com>

死なば浄土へまいりなん

思ひわづらう事ぞなきと思ひぬれば

死生ともにわづらいなし

《意味》

生きてゐる間はお念仏を称えてその功德が積もり、命
 尽きたならばお浄土に参らせていただきます。「いづれに
 しても此の身にはあれこれと思ひ悩むことなどないの
 だ」と思つたならば、生きるのにも死ぬのにも、なにご
 とにも悩みなど無くなるのです。

[illegible]

東日本大震災直後、震源地から遠く離れた埼玉の地で様々な形で私たちの生活に影響を及ぼしました。スーパ－の棚からあらゆる分野の商品が姿を消したことは記

我が家でも懐中電灯が一本では心許ないので、品薄だとは聞いておりましたが家電量販店やホームセンター等を数件ほど梯子いたしました。最終的に行き着いた先は釣具屋で、やっと見つけた懐中電灯は水中でも使用可能

な40センチ以上は有ろうかという大型ライトでした。多少値も張るが今は非常時です。背に腹は変えられないと思ひ、手に取つてみたものの電池の棚を見て愕然、いや予想通り全て売り切れでした。折角見つけた重厚感あふれる大型ライトは結局元の棚に戻すことになったのです。私たちはあらゆる災害を想定し、常日頃から防災意識を持ち、備えを怠るべきではないと教えられてきました。ところがその気になればいつでも揃えられるだろう。面倒だし、災害など縁起の悪いことはなるべく考えたくない。こうして肝心の備えを先送りにしてしまったのです。しかし、いざ「その日」が来ると人は先行きの見えない不安に混乱し、結果的にモラルを欠いた行動に出てしま

います。震災後の混乱ぶりを見ると、我が家のような日頃の不備は決して稀な例ではない事は想像に難くありません。

人生において先行きの見えない不安の最たる出来事が人の死です。私は死んだらどこに行くのか？最愛のあの人は一体どこに行ってしまうのか？普段目を背けがちな「その日」。でも間違はなく「その日」は訪れます。であるのなら、私たちは日頃よりしつかりとした備えとなる信仰を持つべきでしょう。

この世は無常であり人の一生は苦しみの連続であるとお釈迦様はおっしゃっています。愛する人との別れもまた苦しみの一つです。けれども別れを乗り越えることの出来る強い心を誰もが持っている訳では有りません。そんな私たちの為に、お釈迦様はある仏様のみおしえを残して下さいました。その仏様こそが阿弥陀様です。「南無阿弥陀仏」と我が名を呼ぶものを一人残らず我が浄土「極楽」に救い取るとお誓いになった仏様です。

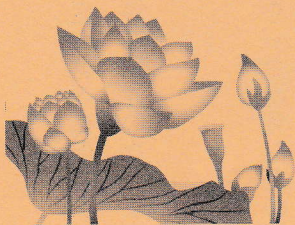
私たちはいつ何時この世とお別れしなければならいのか分からぬ儚い身です。今回の大震災での突然のお別れもあれば、家族に見守られながらのお別れもあります。しかし、どのような形のお別れであつても辛く悲しい事に

変わりありません。人によつては我が身を傷つけてしまう程、心が乱れ苦しむかもしれません。

冒頭のお言葉は、日頃から法然上人が来世に不安を持つ様々な境遇のかたがたにお話なさっていたお言葉です。辛い事、悲しい事、不安なことは全て阿弥陀様におまかせをして「南無阿弥陀仏」に思いを込めましょう。そしていつの日か必ず阿弥陀様のお導きをいただけると信じ、日頃より「南無阿弥陀仏」とお念仏をお称えしましょう。いつも阿弥陀様に見守られている安心感。私たちの往き先も定まっている安心感。そうした安心感が人の心を豊かにし、充実した一生涯にして下さるはずです。

合掌

執筆 蓮光寺 齊藤宏賢
文責 埼浄青広報編集局



表紙の解説（源智上人造立の阿弥陀如来像）

平成二十二年二月、八百年大遠忌を目前に源智上人造立の阿弥陀如来像が浄土宗にお戻りになりました。

この阿弥陀如来像は元々、滋賀県にある真言宗のお寺の玉桂寺に安置されていましたが、驚くべきことに近年の調査でこの仏像の胎内から沢山の文書が発見されました。

浄土宗の宗祖法然上人が建暦二年（一一二二）に亡くなられ、翌年の一周忌のご供養のためにお弟子である源智上人が中心となり、全国から寄進者を募り阿弥陀如来像の造立を発願し、その胎内にお念仏の教えに共感した約四万六千人の名前が書かれた「結縁交名帳」や「造立願文」を納めたのです。この結縁帳には身分や地位に関係なく様々な方の名前が記載されており、仏像造立を通じて法然上人に対する感謝の気持ちと、お念仏の功德によってすべての人たちが極楽往生するようにとの願いが込められていたのです。

今、八百年の時を越え、記念すべき大遠忌に合わせて浄土宗に戻られた阿弥陀如来像から伝わってくる源智上人の想いを深く受け止め、共にお念仏をお称えしたいものです。

合掌

わたしたち「埼玉浄青」

私たち埼玉教区浄土宗青年会は、埼玉教区の若手僧侶68名で活動している会です。私たちの主な活動内容を紹介いたします。

○僧侶としての研鑽

月例勉強会を開催し、浄土宗の教えや儀礼、お説教などの勉強をして、僧侶としての研鑽に励んでいます。

○浄土宗の教えを伝えさせていただく活動

浄土宗の教えをお檀家の皆様に伝えさせていただくため、「みおしえ」を発行しています。

○六時礼讃会の開催

毎年秋に六時礼讃会を開催しています。皆様とご一緒に一日に6回の法要を勤めさせていただき、お札をお申し込み頂いた方のご先祖様の供養をさせていただいています。

○社会貢献活動

災害地への金銭的支援を行うため、托鉢を行っています。またこの度の東日本大震災においては、被災地でのガレキ撤去などのボランティア活動を行いました。なお平成23年度の六時礼讃会でお預かりしました供養料は、被災地へ義援金としてお送りさせていただきました。



発行 埼玉教区浄土宗青年会

会 長 石田琢道

広報編集局長 石田浩匡

無断複写を禁止します